

農産物直販から見る地域農業

——鳥取県中部域での事例研究——

井 上 寛 和

- はじめに
- I 本県中部域の地域性概観
1. その特記すべき事項
 2. 本県中部域農業の特色
- II 県農林振興局別での「朝市・直販所」
- III 経営主体から見た中部域直販
1. 「非農協系」の「朝市・直販所」
 2. 「農協系」の「朝市・直販所」
 3. 第3セクターの直販所

おわりに

図1 鳥取県農林振興地域と市町村別農業地域類型

表1 朝市・直販所の開設期と会員規模

表2 開店区分類型から見た朝市・直販所

表3 経営主体別での農産物直販形態

表4 「おがも朝市」の参画農家構成

表5 「パークスクエア日曜朝市」の参画者構成

表6 「お台場いちば」の経営状況

はじめに

農産物直販（以下では直販）は大規模産地を形成し得ない山間地域での、流通の隙間（ニッチ）として1980年代初に注目され始めた。同年代後半では生協・消費者団体などが、輸入食材安全性への危惧や、庭先価格と市場価格の乖離への反発運動から直販を伸長させた。また、国農政の土地利用型農産物への価格支持政策の撤収も、農業経営組織での野菜作重視へと向かわせた。1990年代初のバブル経済崩壊以降の長期的不況の中で、特に同年代末からのデフレ基調下では、共販青果物価格も低迷している。加えて、開発輸入増、自治体農政の地産地消の提

唱、「新農基法の時代」としての食安全性推進下のトレーサビリティ要請も加わり、共販供給サイドも直販での活路打開へ関心を深めている。結果として、今日の直販は経営主体と参画者規模の点で、個別農業者によるIT販売・宅配などから、農協や第三セクターによる大型直販所に至るまでの多様化を遂げている。

ところで、直販研究対象は生鮮農産品・加工品の販売活動に止まらず、自家栽培食材でのスローフードのレストラン経営、さらには松木洋一（2001）も東京都下の事例として扱うように、農業の多面的機能の直売化（体験農園など）も加える状況下にある。しかし、本稿での直販研究対象は複数農業者による朝市（昼市・夕暮れ市を含む建物外直販、以下では特記の要に際し朝・昼・夕を明記する）と直販所（建物内）に対象を限定した。その理由の第1は、本稿の対象地域は果実・野菜の主産地として共販を展開しており、流通対照性としての直販を把握したいからである。第2には、管見の限りでの直販に関する先学の論考は、特定の直販活動に関する分析事例が多い。この点で、大阪府下57朝市・直販所を対象とした藤田武弘（2000）の地域論的研究を敷衍したいからである。なお、本稿の分析対象地域である鳥取県中部域は、倉吉市と周辺8町1村を指し、農協域では東伯農協と1998年合併成立の鳥取中央農協（以下ではJA）の活動域である。本域では2003年8月現在、経営主体類型9区分下に、23の農産物朝市・直販所が確認出来る。

I 本県中部域の地域性概観

1. その特記すべき事項

本稿の分析対象地域は鳥取市と米子市間約100kmの中間地点にある倉吉市を地域中心に総面積780.57km²（県域の約22.2%，うち倉吉市174.50km²）を占めている。水系は東より東郷湖流入小河川・天神川・由良川・加勢蛇川などに分かれ、単一水系ではない。県下でも特に本地域での耕地土壌構成が旧行政村域別にも多様で、砂丘砂土・大山火山灰土・河川沖積土・山畑土のモザイク構成を示している。翻って、2000年国調人口は116,686人（うち倉吉市49,711人、前回国調より1,388人減）で、うち羽合町のみ1980年以降の毎国調で人口増加を示し、特に1995～2000年では7.0%増を示し7,767人になった。

かかる人口動態、とりわけ倉吉市の市街地外延化の中で、旧中心商店街（旧JR倉吉線—1985年廃線の打吹駅^{うつぶき}周辺の活性化が1997年第3セクター（株）赤瓦の設立を契機に加速した。一方、2001年倉吉パークスクエア（敷地面積約11万m²、県施設：倉吉未来中心—1,503席大ホール・梨記念館・アトリウム—室内吹抜け空間・よりん彩—男女参画サロン、市施設：ふれあい広場・食彩館・倉吉交流プラザ—市立図書館と生涯学習センター・温水プール・屋外遊具園など）が開設された。本スクエアは本市の中心商店街から東へ約700mの駄教寺町にあり、興和紡績倉吉工場（1951年本市が誘致・1986年全面閉鎖・1993年敷地を本市が全面買収）の跡地再開発として造成された。なお、西原 純（1999）は倉吉市の1980年代に至る百年誌を地誌学の立場から扱っており、また小林宏行（2001）は旧市街地の活性化と本スクエアの人・物・情報の交流効果を高く評価している。後論のように、本施設には直販2形態が活動する。翻って国道整備に言及すると、1981年179号線人形峠トンネル開削、1990年9号線の北条砂丘横断化とその東延での2003年青谷羽合道路開

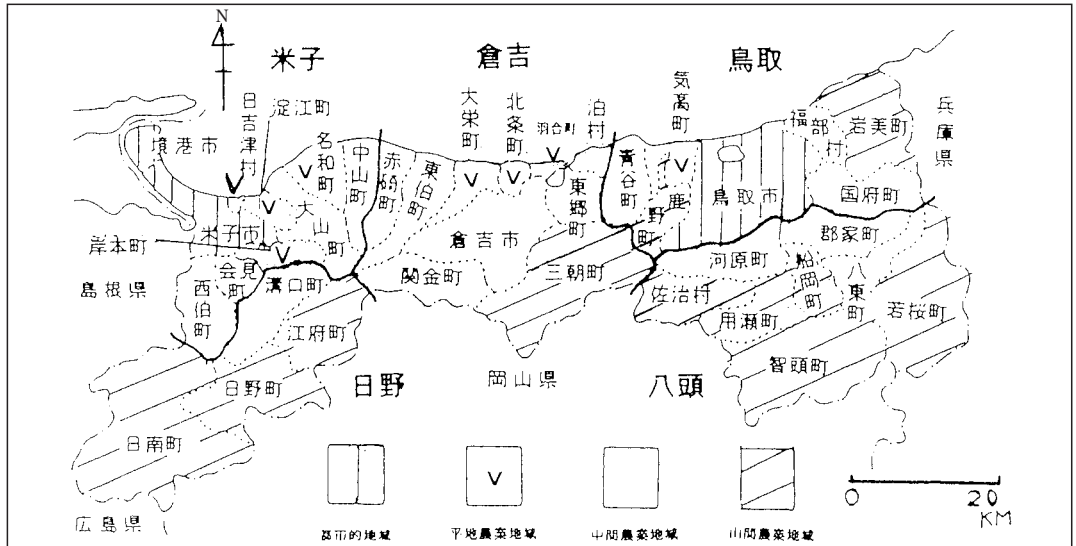
通、1997年313号線^{いぬぼさり}犬狹トンネル開削は、特に本稿対象地域への時間的距離を縮めた。

2. 本県中部域農業の特色

本地域農業の特色として、第1に旧農基法下の主産地形成期を中心に、上述の自然的基盤に於ける適地適作を追求し、旧行政村規模的な野菜・果実・畜産部門内での作物特化を遂げた点である。結果として、本地域は全国大産地での1作物特化との比較では、多種少量生産の主産地形成を現在に残した。なお、井上寛和（2001）は本地域市町村別での、かかる作物特化の様相をすでに報告している。第2に本県内での本地域への農業生産の集中性である。すなわち、2000年生産農業所得統計での本県農業粗生産額770億円に於いて、本域は311億円・44.3%を占めている。また、2000年販売農家中の専業農家戸数では、本県値4,168戸に於いて、本域1,371戸・32.9%である。第3に本域内に於ける市町村間での域内格差性である。すなわち、農家1戸当たり生産農業所得（2000年県値65、本域値90、三朝35、羽合42、関金・倉吉・泊77、赤碕90、東郷・北条112、東伯154・大栄218万円）での格差であり、とりわけ大栄町の優位性が歴然とする。専業農家率（同年県値14.3%に於いて、本域値17.3・大栄25.1%—2位三朝を5.5ポイント引離し、最低の関金13.6%）でも、大栄町は突出した高率性を持続している。

さて、図1は本県農政での5農林振興局（以下では振興局）域別市町村と、それらの農水省農業地域類型とを示している。いま、振興局別に本類型該当市町村数を纏め、2000年本県人口613,289人の振興局間構成比を付記してみよう。まず臨海3振興局では、鳥取（都市的1・平地1・中間3・山間2；32.5%）、倉吉（平地3・中間6・山間1；19.0%）、米子（都市的2・平地4・中間4；37.0%）となる。一方、内陸2振興局では、八頭（中間3・山間5；8.2%）、日野（中間1・山間3；3.3%）である。総面積3,508km²の狭小性の中での本県の地勢の複雑性と、臨海3振興局での倉吉の相対的

図1 鳥取県農林振興地域と市町村別農業地域類型



出所) 鳥取統計情報センター作図の市町村図に加筆した。

人口僅少性に注目したい。

Ⅱ 県農林振興局別での「朝市・直販所」

本県での「朝市・直販所」の分布調査は2000年8月に経営指導課で、ついで2001年11月に新設された市場開拓課（地産地消推進室を併設）で実施された。この両調査は1982年を嚆矢とする2001年までの103例の「朝市・直販所」を把握している。表1はこれら103例を振興局別に、開設年次4期区分と参画農業者規模区分で示してある。この際、年次区分はⅠ期（1982～89年）＝全国的な直販濫觴期・後半バブル経済期、Ⅱ期（1990～93年）＝バブル経済崩壊前期、Ⅲ期（1994～97年）＝バブル経済崩壊後期、Ⅳ期（1998～2001年）＝農業不振深化期（初年での本県下4農協体制成立、デフレ基調下の農産物価格下落）とした。一方、参画農業者規模区分では、2～10人＝超小型、11～30人＝小型、31～50人＝中小型、51～100人＝中型、101～300人＝大型、301人以上＝超大型と命名する。なお、4農協域と振興局域との関係で

は、「鳥取いなば農協」＝鳥取・八頭振興局域、「鳥取中央農協」＝倉吉振興局域、「東伯農協」＝同左、「鳥取西部農協」＝米子・日野振興局域である。また、本章では上記期間以後を含めて、活動を撤退・改組（合併）した事例も不問とした。

結果として各振興局域は、つぎの特色を示している。すなわち、鳥取振興局域：事例総数31のうち半数がⅠ期に集中し、経営指導課が把握した本県での最古事例（岩美町域）も本振興局域内である。大規模直販所事例では、Ⅱ期で大型1（国府町域）、Ⅳ期で超大型2（鳥取市域－その内1は単独農協の鳥取畜産農協を经营主体とし、八頭振興局域をも含む参画農家への堆肥供給と直販を結合する点で要注目）が開設された。八頭振興局域：事例総数17のうち半数がⅠ期であり、Ⅳ期で超大型（智頭町域）の開設という点で鳥取振興局域と類似している。倉吉振興局域：事例総数25に於いて、開設時期が最も分散的である。合わせて、大規模直販所の開設もⅠ期で大型2（関金町域－合併以前の単位農協での組合員を株主とする直販所として注目）、

表1 朝市・直販所の開設期と会員規模

鳥取県農林振興局域別 2001年11月

農林振興局 時期区分 会員規模 人	鳥取					八頭					倉吉				
	I	II	III	IV	計	I	II	III	IV	計	I	II	III	IV	計
1～10	7		1		8		2	1	1	4	1			1	2
11～30	4	4	4		12	5	1	1		7	2	1	4	2	9
31～50	4	1		2	7	3				3	1	3		2	6
51～100	1				1		1	1		2				1	1
101～300		1			1						2		1	3	6
301～680				2	2				1	1		1			1
合計	16	6	5	4	31	8	4	3	2	17	6	5	5	9	25
農林振興局 時期区分 会員規模 人	米子					日野					合計				
	I	II	III	IV	計	I	II	III	IV	計	I	II	III	IV	計
1～10		2	1		3						8	4	3	2	17
11～30			4	7	11	2			4	6	13	6	13	13	45
31～50		1		3	4						8	5		7	20
51～100			1	3	4						1	1	2	4	8
101～300								1		1	2	1	2	3	8
301～680									1	1		1		4	5
合計		3	6	13	22	2		1	5	8	32	18	20	33	103

注) 表頭時期区分はⅠ期：1982～89年・Ⅱ期：1990～93年・Ⅲ期：1994～97年・Ⅳ期：1998～2001年。

資料) 「ふれあい直売市マップ」2001年11月作成の原資料により作成。

出所) 鳥取県農林水産部市場開拓課。

表2 開店区分類型から見た朝市・直販所

鳥取県農林振興局域別 2001年11月

類型記号 農林振興地域	YMI	YMA	YGI	YGA	YGU	SMI	SGI	SGA	SGU	計
鳥取	5	3	11	6	4		1	1		31
八頭	10	4	1	1		1				17
倉吉	8		3	3	5			5	1	25
米子	4	4	2	6	2			3	1	22
日野			1	4			2	1		8
県計	27	11	18	20	11	1	3	10	2	103

注) 直販所の類型記号 開店状況での年内期間：Y通年・S冬季休業。

開店曜日：M1休曜以外毎日・G限定曜日。1日での時間帯：I終日・A朝市・夕暮れ市。

資料)・出所) 表1と同じ。

Ⅲ期で大型1（関金町域）、Ⅳ期で大型3（倉吉市・羽合町・関金町域）と連続している。米子振興局域：事例総数22に於いて、Ⅰ期は皆無、3事例がⅡ期に、半数がⅣ期である。全期に涉り大規模直販所も皆無であった。しかし、

変化は本章での考察期間後に現われた。すなわち、2002年3月「ふれあい村アスパル」（鳥取西部農協が日吉津^{ひえづ}村域に開設した「JAグリーン西部」内の直販所一売場面積830m²・日野農林振興局域をも含む参画農業者数650名・消費

者会員組織あり)の出現である。なお、「JA グリーン西部」は「米工房」・「あぐり館」(肥料・農薬・農業資財の営農指導員付き販売所)・「パルスステーション」(交流会室・料理教室・ガーデニングの多目的空間)の3施設を併設している。この際、「朝夕市・直販所」への消費者会員組織は、管見のかぎりBSS山陰放送局前庭での朝市にも存在しているが、注目すべき先進性である。日野振興局域：設立の時期区分別での様相および大型直販店の出現期に於いて、米子振興局域と類似している。その限りに於いて、経済地域類型で中間・山間地域で同一の、八頭振興局域との対照性が浮上する。

一方、表2は表1での103「朝夕市・直販所」の、営業の開店区分類型を5振興局別に比較している。営業の開店区分類型とは、営業期間(通年か冬期休業)・週間営業状況(定休日以外での毎曜日か限定曜日)・営業時間(終日・朝市・昼夕暮れ市)三者の、択一組み合わせを指している。なお、成立12類型中の類型記号3者(YMU, SMA, SMU)は該当なしである。結果として、第1に、臨海3振興局域の比較では、鳥取・米子の両振興局域が通年型を主体とするが、倉吉振興局域は類型分散性が卓越している。かかる相異性は前者が需要サイド要求の結果であるのに対して、後者は保持する総人口数からも供給過剰要因が働き、直販所形態の多様化を遂げる一因もある。第2に、八頭・日野振興局域の比較では、後者が通年・毎曜日の「朝市・直販所」を欠く状況に過疎が関与する。

Ⅲ 経営主体から見た中部域直販

Ⅱ章に於いて、2001年秋での本県中部域すなわち倉吉振興局域での「朝市・直販所」数は25であった。本章では2003年8月現在での23「朝市・直販所」を分析対象とする。この約2カ年間の異動はつぎの様である。まず「朝市・直販所」数の減少では、第1に、「上井朝市」(1986年より、倉吉市旧村^{あげい}上井村域、^{せいたに}清谷公民館で一イベント専念のため撤退)、および「西

郷ふれあい市」(1990年より、同市旧村西郷村域、JA西郷支所前—高齢化のため撤退)の2件がある。第2に、表3での⑩「とれ鮮市」(2003年6月1日より、旧トピア東伯改め「とれ鮮市トピア店」内)に関連する。すなわち、⑩は「東伯農協女性会夕ぐれ市」(1990年よりトピア東伯西側駐車場で)と「とうはくとれ鮮市場」(2000年より東伯プラッツ構内)の、両農協系直販の統合である。因みに、「東伯プラッツ」は地ビール醸造販売での全国第1号で有名である。一方、増加では⑦「明倫夕ぐれ市」(2002年より)が新規参入した。なお、表3は本稿第Ⅱ章の考察での資料(県経営指導課・市場開拓課資料)を継承しつつ、独自のヒアリングとアンケートを加えて作成した。

さて、表3の表側は「朝市・直販所」の運営主体および主体的参画農業者の居住領域を指標とした分類区分である。すなわち、「非農協系」I~V(「問い合わせ先」が農協関連でない「朝市・直販所」)、「農協系」VI~VIII、「第三セクター」IXに3大別した。ただし、全23「朝市・直販所」の参画者は後述する⑩での一部例外を除き、全員がJA傘下または東伯農協の組合員である。また、「朝市・直販所」間の会員重複もみられる。

1. 「非農協系」の「朝市・直販所」

I 1 集落有志の朝市・直販所

①「木地山百円市」：1989年より、三朝町木地山集落内の有志4名が、国道179号線人形峠トンネル至近の同集落沿道で開所する。冬期を除く土・日曜では朝市であり、他曜日は無人市で開所している。

②「大父集落直売グループ」：1996年より、赤^{あか}碕町域「道の駅 ポート赤碕」(1994年赤碕漁協事業会開業)へ、本集落13名の直販所をインショップで通年週5回終日の開店。各自家製の「筍の水炊き」・「山菜佃煮」・会員醸造家の日本酒銘柄「酔うたん坊」なども扱う。また、本グループは東京・大阪への会員産米の宅配販売も手懸けている。本集落は本町域最南にある。

表3 経営主体別での農産物直販形態 鳥取県中部域

2003年8月現在

分類区分	番号	所在の市町村	朝夕市と直販所の名称下線は直販所	運営主体 J A は鳥取中央農協を指す	所在地・開設場所	開設西暦年下2桁	会員数計(女子数)単位:人	開店状況 期間: Y 通年・S 冬なし・曜日: M 1 休曜以外毎日・G 限定曜日・時間帯: I 終日・A 朝・U 夕
I	①	三朝町	木地山百円市	木地山集落内の有志	国道179号線 人形峠近傍	89	4(…)	S・G・A
	②	赤碕町	大父集落直販グループ	大父集落内の有志	国道9号線道の駅「ポート赤碕」へ、インショップ	96	13(6)	Y・G・I
	③	三朝町	泉の里特産市	今泉集落の有志	国道179号線沿い同集落	00	25(20)	S・G・A
II	④	泊村	甲亀山ふれあい市	石脇・筒地・泊・小浜の有志	石脇集落内店舗	93	13(11)	Y・G・I
	⑤	関金町	清流遊 YOU 村	米富・小泉集落の釣りセンター	小泉集落内	98	10(10)	Y・M・I
III	⑥	倉吉市	おかも朝市	小鴨地区総合開発促進協議会・旧 JR 西倉吉駅舎跡地		86	39(20)	S・G・A
	⑦	倉吉市	明倫夕くれ市	おかも朝市のメンバー・明倫小学校前		02	19(11)	S・G・U
IV	⑧	三朝町	三朝温泉日曜朝市	同町内の東・西2校区農家・観光商工センター横		00	31(28)	S・G・A
	⑨	倉吉市	久米にここにこ市	北谷・高城・社3校区有志・JA 中央営農センター横		90	89(83)	Y・G・U
V	⑩	倉吉市	パークスクエア日曜朝市	倉吉市元気な村づくり協議会(市農林課支援)	倉吉パークスクエア内ふれあい広場	01	32(13)	S・G・A
VI	⑪	東郷町	とうごう市	JA 東郷町支部女性会	A コープ東郷隣接	94	25(25)	Y・G・U
	⑫	三朝町	三朝青空百円市	三朝町支部女性会	山田・温泉病院前	87	18(18)	Y・G・A
	⑬	三朝町	木曜夕暮れ市	同上	A コープみさき店前	95	12(12)	Y・G・U
	⑭	関金町	JA 関金町支部女性会ふれあい市 同上の別店	同左同上	関金宿・宝製菓前、別店は A コープ関金店前	87 02	128(128)	S・G・昼 S・G・昼
	⑮	赤碕町	赤碕ふれあい市	JA 赤碕町支部女性会	A コープ赤碕店前	92	41(41)	Y・G・U
	⑯	北条町	HOJYO 砂丘マート	JA 北条町支部女性会	A コープ下北条店内	99	20(20)	Y・M・I
	⑰	東伯町	とれ鮮市	東伯町女性会を主体	とれ鮮市トピア店	03	58(47)	Y・M・I
VII	⑱	大栄町	お台場いちば	(株)大栄協同開発大栄町支所組員株主	国道9号線道の駅「大栄」	92	452(216)	Y・M・I
VIII	⑲	倉吉市	フルテリア	JA 直販店舗課直営	倉吉パークスクエア食彩館	01	127(115)	Y・M・I
	⑳	関金町	湯の関ふれあいハウス	03年直営化	高齢者生活福祉センター隣	95	116(68)	Y・M・I
	㉑	羽合町	羽合夢マート	同上	JA 羽合町支所北に隣接	98	181(122)	Y・M・I
IX	㉒	三朝町	道の駅「楽市楽座」	(株)グリーンサービス	国道179号線大柿	89	随時出荷	Y・M・I
	㉓	関金町	道の駅「犬狹」	(株)せきがね犬狹観光	国道313号線・近同名トンネル	98	200(100)	Y・M・I

注) 表側の朝夕市・直販所類型区分: I 1 集落, II 複数集落, III 旧 1 行政村域, IV 複数の旧行政村域, V 倉吉市全域参画対象, VI JA 女性会, VII (株)大栄協同開発, VIII JA 直販店舗課直営, IX 第 3 セクター

資料) 「ふれあい直売市マップ」2001年を原資料に, 2003年8月までの直販所見学・アンケート・ヒアリングにより作成した。

出所) 鳥取県農林水産部市場開拓課。

表4 「おがも朝市」の参画農家構成

2003年8月現在

農家番号	男女人	居住の集落名	出店品目	他の「朝市・直販所」への出荷
1	1 1	富海	野菜類 梨 あたご柿・会長	⑦⑱
2	1 1		野菜類	⑦⑱
3	1 1		野菜類	
4	1		花き	
5	1 1		野菜類 梨 あたご柿	
6	1		野菜類 梨 あたご柿	
7	1		野菜類	
8	1 1		野菜類	⑦妻⑩
9	1		野菜類	⑦
10	1	中河原	野菜類 りんご ウド粕漬け	⑦⑱
11	1		野菜類	
12	1		イギス	⑦⑱
13	1 1	下大江	シブ	
14	1 1		菊・副会長・ 全国愛瓢会会員	⑦⑱の会長
15	1 1	小鴨	野菜類	⑦「犬挾」
16	1 1		野菜類	⑦
17	1		野菜類	⑦
18	2	生田	野菜類 倉吉総合卸売市場へ	父⑩
19	1 1		野菜類・有機栽培米産直も	⑩⑱
20	1 1	北野	菊 切り花	
21	1	岡山	蒜山高原野菜	⑦⑱
22	1 1	倉吉市内	ポット花苗	個人でI T販売
23	1 1	関金町	野菜類	
24	1	倉吉市内	東伯町域産肉類や鮮魚	
25	1	上小鴨校区 上古川	野菜類・今年新規参入	⑱
計	19 20			

注) 表中、岡山は真庭郡八束村上長田。イギスは海草から造る付き出しの伝統食品。
シブは照葉樹小枝の仏花。⑦「明倫夕暮れ市」、⑩「パークスクエア日曜朝市」、⑱「フルテリア」。表3を参照のこと。
資料) ヒアリングにより作成した。

③「泉の里特産市」：三朝町今泉集落内の有志25名が、国道179号線同所で開店する。冬期を除く日曜朝市である。町農林課も支援した。

II 旧1行政村での複数集落の有志の直販所

④「甲亀山ふれあい市」：1993年より、生活改善グループとして泊村内の4集落一石脇・筒地・泊・小浜の13名うち女子11名で通年月1回終日、石脇集落内で開所。同グループは1999年加工特産品開発班「泊村はまなす加工研究グループ」を設立した。その最大の成果は、海岸自生の「つわぶき」（泊村村花）の佃煮加工で、隣接東郷町の「水明館」（国民宿舎全国第1号）での朝食に供用するまでの成果を挙げている。

⑤「清流遊 YOU 村」：関金町米富・小泉2集落による釣りセンターの経営。同時に自産食材加工、特に「山菜おこわ」の同所での提供および予約販売を展開している。

III 旧1行政村域での地区振興の朝市

⑥「おがも朝市」生産者出荷組合：倉吉市域旧行政村1村（1小学校区・集落数15）での、小鴨地区総合開発促進協議会（小鴨公民館内）農産部の主活動として、1986年以来6～12月半年間毎水（午前6時半～）・日曜（午前7時～）の朝市である。開催場所は旧JR倉吉線西倉吉駅舎跡地（西倉吉バス停より南へ約20m）で、「おがも広場」と通称されている。道路を隔てて南に「ロードステーション西倉公園」（「トイレづくりの街・倉吉」らしい綺麗な御手洗がある）が旧軌道敷の面影を止めている。

本朝市は独創的な対面販売として「鳥取の自慢100選」にも入り、知名度も高い。表4のように、2003年度では参画農家25戸（夫婦13戸・男2人1戸・男1人5戸・女1人6戸＝男子計20・女子計19人）が、幌付き軽トラ25台を広場を中にして馬蹄形に駐車（毎年朝市前日に位置を抽選）して、荷台を売店にする。参画農家数を前年度と比較すると、参画農家1戸減・男子1女子3人減（2戸撤退＝夫婦1戸と「希望の家」男女各1人、夫婦1戸の内女子1人撤退、男子1人の1戸新規参入）である。「希望の家」は、倉吉市みどり町にある身体障害児施設であ

るが、本朝市開設以来2002年まで、児童と先生の収穫品を搬入し男女各1人として会員参画していた。2003年度会員25戸を住所別にみると、旧村小鴨村20戸（富海9・小鴨3・中川原3・下大江2・生田2・北野1戸）・旧村上小鴨村1戸（新規参入）・旧倉吉町1戸（元小鴨村の人）・関金町2戸・岡山県真庭郡八束村上長田1戸である。旧村小鴨村以外の農家の参画により販売品目の多様化が計られている。なお、販売品目中の「シブ」とは照葉樹小枝の仏花、「イギス」とは海藻から造る付き出し用の当地伝統食品である。

ところで、本朝市の開催期間中には特別企画日（初市一ぜんざい・揚げ豆腐の振舞い、盆市、謝恩市一景品抽選会と豚汁の振舞い、止め市）がある。この財源に注目すると、まず2回の炊出しは市補助金（旧10村の公民館単位で交付、小鴨公民館では毎年定率で本朝市へ支出）に依存してきた。補助金額が大であった数年前では、会員の研修旅行も可能であった。一方、抽選会の景品代（2002年度では約18万円）は年会費（5千円）以外での会員均等割とする。この際、その景品は会員の調達可能な自作農産物を充て、一旦組合で買上げた上で均等負担する。なお、抽選会の細目は、朝市期間での15回参加者を、一般抽選会での1回抽選権保有者とし、特等1人梗米・1等5人糯米・3等15人玉葱・4等20人里芋・5等菊・等外は揚げ豆腐900人分を準備する。加えて45回以上の来訪客に、当朝市会長賞景品・同副会長賞景品を含む特別賞（100人・2kg梗米）の抽選対象者とする。因みに、1997年までは倉吉農協組合長賞・同常務賞・同専務賞・本公民館長賞・本協議会長賞・同農産部会長賞の諸景品も特別賞に名を列ねていた。「おたのしみ抽せんカード」（裏面にブドウ4房の各粒へ1～55の数字）は、例年初市日に売場1番の農家が来訪客へ手渡し、ゴム印押捺作業を止め市まで売場農家順に巡送する。

ここで、2003年6月15日（日・晴天）での初市状況を素描する。すなわち、午前5時召集へ

会員は参集し、本部テント・たれ幕・幟り旗を設営した。当日は「ぜんざい・揚げ豆腐の振舞い」があり、本部に食材・調理具が各分担班で数分内に準備された。すでに馬蹄形軽トラ駐車配列も済んでいる。6時に会長のY氏から初市の挨拶が行なわれた。ついで、会員全員で共通販売品の値決めをしたが、実に楽しい雰囲気であった。マイクが「振舞い開始」を告げた6時30分には、すでに参集者は大部分年配での150名余の1縦列になったが、交歓の様子からその大部分はリピーターである。副会長のF氏によると北条町・大栄町からの常連の方もいる。初市を祝う要路の人も数人は居られた。印象深いのは、馬蹄型駐車列から少し離れてJA職員による共販「大原トマト」の扱所が設けられたことである。ともかく、7時のホイッスルを合図に各軽トラの幌が一斉に外されて、朝市が開始した。終了は小1時間後と早かった。

⑦「明倫夕ぐれ市」：2002年より西倉吉の小鴨川対岸にある明倫小前で「おがも朝市」会員中の希望者（表4参照）を主体に、12戸・19名（うち女子11名）で開店する。「おがも朝市」と同形態・同開店期間であり、開催曜日（水曜日ただし第2・第4のみ）も「おがも朝市」と同曜日を採っている。

IV 複数旧行政村域での朝市・夕暮れ市

⑧「三朝温泉日曜朝市」：本町の三朝東小校区中の8集落、三朝西小校区の8集落計16集落の直販拠点として、温泉旅館が立ち並ぶ街区の観光商工センター前を選定している。会員31名中28名が女性である。町農林課も支援した。

⑨「久米にここ市」：通年の夕ぐれ市開催地は本市横田のJA中央営農センター横である。会員は倉吉市域旧3村、北谷（8集落・20戸・21名うち女性21名）、高城（10集落・38戸42名うち女性37名）、社（7集落・25戸・25名うち女性25名）に倉吉市越殿町の男性農業者1人が加わる。会員合計89名うち女性83名という人員規模と広域性は販売係当番の回数を減らし、同時に市の品揃えを豊富にする。会員の個別売掛金の個別振込みも独自で行なう。後述の⑩「パー

クスクエア日曜朝市」・⑩「フルテリア」への重複会員も多い。専兼別の参画では前者70%台で、全調査事例と共通する。一方、会員も参加する生活改善グループの加工品（「ひなどりグループ」の「こも豆腐」一藁づとで豆腐を包む）も有名である。

V 倉吉市域農業振興の朝市

⑩「パークスクエア日曜朝市」：まず、本直販活動が実施されるスクエア内の「ふれあい広場」での2002年度での農業関係のビッグイベントを一瞥する。すなわち、5月「メロンとラベンダーまつり」、9月「NHKふるさと食につぼん食」、10～11月「第17回国民文化祭・とっとり2002」と、県規模での食の催しは中部域の豊かな農産物生産のイメージと重ねられて、この広場が活躍している。食を離れても、この広場は全国的に有名な「倉吉マラソン」の起終点であり、2002年からは、フリーマーケットの「くらよし大市」（毎月最終日曜日午前より・持ち込み地域制限なし）も開かれている。⑩「フルテリア」共々、本朝市も、交流への一役を果たしている。

開設に向けては、「倉吉市元気な村づくり推進会」（市農林課支援）が構想を練った。2001年6月より本朝市は開始したが、翌年4月その窓口は「ふれあい広場」隣接の「倉吉交流プラザ」内の市教委生涯学習課「倉吉まちづくり協議会」へ移管された。なお、本朝市運営協議会規約は、a. 原則として会員を倉吉市在住者と、b. 開催の場所柄から直販品の搬出入の注意自覚を参画条件とし、c. 対面販売方式の採用、d. 事務局を本会会長宅とする、を骨子としている。2003年度も会長は「おがも朝市」の副会長F氏である。

表5に於いて第1に、店舗形態は開催毎時の、テント番号1～17班の参画グループでの、組み立て式小型テント（市所有）のハモニカ型設営である。広場を隔てた真ん前の「食彩館」内のJA直販店舗課直営の直販所「フルテリア」とのコントラストは強い。第2に、構成メンバー26戸中9戸は「おがも朝市」という対面

販売の雄であるが、残余では、自然農法産品（テント2・16）と非農家参画（テント8・10）が特色である。つまり、本朝市は産消協同型なのである。

2. 「農協系」の「朝市・直販所」

VI JA女性会支所別支部の「朝市・直販所」

本域では女性が基幹的農従者の50%を占めるが、1998年JA女性会への統合以前から、10単位農協別に活発な諸グループ活動（生活改善・直販活動・福祉—高齢者介護・教育—学校給食材提供・文化・営農—有機肥料）を展開してきた。本項ではJA各支所組合員課の女性会に事務局を置き、直販所活動をする7例が対象である。この際、第1に、A群〔⑪「とうごう市」＝Aコープ東郷店隣接・⑫「三朝青空百円市」＝温泉病院前・⑬「木曜夕ぐれ市」＝Aコープみささ店前、⑭とは会員一部重複・⑭「JA関金町支部女性会ふれあい市」＝宝製菓前、2002年よりAコープ関金店前で支店活動開始・⑮「赤碓ふれあい市」＝Aコープ赤碓店前〕と、B群〔⑯「HOJYO 砂丘マート」＝Aコープ下北条店内・⑰東伯町農協の「とれ鮮市」＝「とれ鮮市トピア店」内〕の2区分が必要である。

加えて、第2に表3からも、各参画集落・各会員数が多様である中で、A群は⑫の5時からの朝市および⑭の昼市を除いて夕暮れ市である。⑨事例をも含めて、女性による直販活動の夕暮れ市への集中性は、採りたて野菜の出荷を兼ねて販売当番も済ませるという着想（対面販売化）にある。ともかく、⑪での梨収穫期を典型に各事例での特化作物の収穫期が、女性労働のピークとなる。販売価格も百円市または持込者自由の択一で、簡潔にして各事例は出品内容での独自性発揮となる。第2に、B群はAコープ内ヘインショップすることで、終日販売での増収とバーコード化による販売当番の回数減少を得ている。

ところで、女性会の生活改善活動は初期では保健・農業簿記・青色申告記帳を主体としていた。しかし、その指導助言での農業改良普及所

表5 「パークスクエア日曜朝市」の参加者構成

2003年8月現在

テント番号	会員番号	参加人数	小学校校区	住居集落	他市・直販所への出荷	出店品目・本会の役職・職業
1	1	2	小鴨	中川原	⑥	うどん粕漬・奈良漬け
2	2	1	高城	下米積	⑩	監事
	3	1	高城	今在家	⑨⑩	自然農法グループ
	4	1	北谷	大河内	⑩	会社員 その認定ラベル、MOAを貼って販売している。
	5	1	灘手	上神	⑩	
3	6	1	明倫	越殿町	⑨	活動中止予定
4	7	2	上小鴨	中川原	⑥⑦	イギス
5	8	2	小鴨	下大江	⑥⑦⑩	会長 菊専門
6	9	2	小鴨	生田	⑥⑦	監事 各種野菜・糯米
7	10	2	小鴨	生田	⑥⑦	市農業委員 有機栽培米
8	11	1	西郷	大原		会計・会社社長 大原は無加温低農薬トマト栽培で共販
	12	1	西郷	大原		JAのOB
	13	1	西郷	大原		会社員
	14	1	西郷	大原		会社社長
9	15	1	小鴨	富海	⑥⑩	会長 野菜・卵
10	16	2	上北条	古川沢	⑩	副会長 様々な豆類・素麺 かぼちゃ・もち大豆
	17	1	上北条	古川沢		
11	18	2	小鴨	富海	⑥⑦	野菜・秋には梨
12	19	2	小鴨	富海	⑥⑦⑩	上に同じ
13	20	1	社	大谷		アキヒメ南京・野菜
	21	1	社	大谷		上に同じ
14	22	1	岡山県	上長田	⑥	蒜山高原野菜
15	23	1	上小鴨	鴨河内		アキヒメ南京・西瓜
16	24	1	灘手	上神		ケチャップ・自然農法無農薬栽培トマト・花
	25	1	灘手	上神		
17	26	2	上小鴨	上古川	⑩	野菜・秋には梨

注) 販売は26会員が17張のテントの編成で行なう。会員が農業者でないグループには、会員居住集落の非会員農家が参与している。参加人数での2は夫婦会員である。

参加人員欄の・印は女性数(13名)である。他「朝市・直販所」への出荷欄:表3の直販所番号で表示。

資料) 2003年8月でのヒアリングにより作成。

の機能は農産加工品の試作へと変化した。その商品化への成功例は「朝市・直販所」での販売加工品として登場する。

VII (株)大栄共同開発の直販所

⑩「お台場いちば」:国道9号線道の駅「大栄」は1992年全国第1号指定であり、前年完成の町立「お台場公園」9.7ha(0.9ha多目的広場ほか9施設)に隣接する。そのサービスエリアは、

1992年よりの(株)大栄共同開発の本直販所と(株)お台場観光(当初大栄町商工会, 現個人経営の純土産品売場付きレストラン)および50台駐車場場で構成される。

(株)大栄共同開発は大栄町農協(現JA大栄町支所)の組合員を株主とした直販会社である。1株5万円で, 設立以降JA中央への合併までは資本金2千万円, 同合併を機に1千万円に減資した。現在の持株構成は西瓜協議会40株・ながいも部会40株・果実(梨)部会10株・ぶどう部会1株・お台場いちば「友の会」(直販出荷農業者の呼称, 215名1万円抛出, 以下でも本呼称で)43株・JA中央農協16株・JA大栄町支所役員50株で, 株券は団体名義である。配当は1996年無配を除き当初より減資までは15%, 1998年より10%である。なお, 当社定款によると, 事業内容は農作業受託・農畜産物加工販売・堆肥製造販売・農機貸出・農業資材加工販売・育苗センター・育苗土生産販売・有価証券保有運用業務・観光農園経営・農畜産物直売所としている。しかし, 専ら最後者のみに事業を限定してきた。

「お台場いちば」は[1階平屋建183m²うち8m²事務室以外の売場面積・営業人員6名=(代表取締役1, 営業部長1, 支所管理課出向職員1, レジ係臨時職員3名)]で活動するが, 営業内容には隣接の「バーベキューハウス」(89m²・収容人員100名・食材はAコープだいいい店準備で調理士出張)を兼務している。なお, 本町挙げてのイベント開催日(「すいか・ながいも健康マラソン」毎年7月第1日曜, 「お台場まつり」毎年8月1日など)には友の会員と支所職員計30名が仮設テントで共販品の販売を手伝う。2003年現在, 「友の会」会員数は個人会員452名うち女子216名と, 大栄町支所女性会の加工品グループ6者である¹⁾。支所女性会会員数は286名であるので, 直販活動への強い志向を窺いうる。なお, 「友の会」会員には年売上額に対して, 2%の出荷奨励金が還付されている。

表6の販売額欄により, まず2000年度「お台

場いちば」の部門別売上状況を提示する。すなわち, 同年度純売上高(総売上高2億7419万円一税金)2億6123万円は「友の会」農産物搬入49.2%・「友の会」加工品1.2%・大栄町支所共販品39.4%・他支所等受入加工品6.9%・自動販売機(ソフトクリーム・ジュース)1.8%・バーベキューハウス1.5%の構成比である。なお, 月別純売上高の最大値は共販西瓜販売増を反映した7月である。同月での「友の会」搬入比率は17.8%に低下するが, その実額は年平均値を凌駕している。一方, 月別純売上高の最低値は1月であり, 7月の13.3%に過ぎない。この際, 1月の共販品は長芋11.6%のみであるので, 「友の会」搬入額比率は73.3%に増幅する。「お台場いちば」は本地域の大規模直販所の最大例として, かかる季節性を顕在化させている。

ついで表6来客数欄により, 2000年度延べ来客数287,746人は, 月別では最大値9月28,342人・最少値1月12,778人・月平均23,979人である。因みに, 1日最大客数は8月第2土曜日(晴れ)での1,667人であり, 最少は1月第2日曜日(雪)での258人であった。営業部長N氏の推定では, 来訪客は周辺市町村70%, 大栄町20%・通過客10%である。

第3に, 同表中の「友の会」搬入者数を見たい。ここでは2000年度各月第1週での搬入者累計値を提示している。すなわち, 最高搬入月と人員数は11月での180名である。定休の月曜日を除いて1日平均30名が搬入指定時間(午前8~9時30分)に搬入処理を行なう。ただし, その事務処理は完全に電算機化(生産者向け値札印刷・バーコード=生産者名と作物名の番号と単価入力, 一方での商品貼付の生産者・単価ラベル=POSレジ通過のバーコード)されている。因みに, 同年度での「友の会」搬入商品個数は840,845個であった。なお, 同年会員別最高出荷額は7,736,000円, 100万円以上出荷額は31名を数える。

VIII JA直販店舗課直轄の直販所

⑨「フルテリア」: 2001年7月「倉吉パークスクエア」の「食彩館」内に開業した。同生産者

表6 「お台場いちば」の経営状況

2000年度 単位：上欄円・% 下欄人

項目 月	純売上額 円	「友の会」直販額 %						共販作物販売額 %					加工品%		その他%		
		野菜	果実	花き	米	その他	小計	西瓜	長芋	メロン	梨	ぶどう	小計	友の会	その他	バーベキュー	販売機
4	11,827,534	36	8	22	-	1	68		13				13	4	10	2	4
5	17,082,809	35	11	17	0	1	64	1	15				16	2	11	3	5
6	29,696,665	24	7	10	0	1	43	41	5	2			48	1	6	2	2
7	64,736,135	8	6	3	0	0	18	71	5	3			79	0	2	1	1
8	23,746,860	24	8	15	0	1	48	19	10		8	2	39	1	7	1	4
9	20,254,450	36	8	11	0	1	56	2	10		17		29	1	8	4	3
10	19,206,425	46	14	12	0	1	74	2	12		2		16	1	7	1	1
11	19,744,632	43	8	9	0	1	61		27		0		27	1	8	2	1
12	21,401,211	39	4	11	0	1	54		35				35	2	8	0	0
1	8,607,954	53	10	9	0	1	73		12				12	3	12	-	1
2	11,733,832	51	12	11	0	1	75		8				8	3	13	-	1
3	13,193,518	37	14	20	0	1	72		12				12	3	13	0	1
計	261,232,025	29	8	11	0	1	49	24	12	1	2	0	39	1	7	2	1
2000年度各月				4	5		6	7		8		9		10			
来客数				18,921	22,899		24,288	23,394		25,073		28,342		26,857			
各月第1週6日間「友の会」 搬入者累計 人				150	110		110	150		130		122		160			
2000年度各月				11	12		1	2		3		月平均		年合計			
来客数				24,948	22,781		12,778	18,069		21,396		23,979		28,746			
各月第1週6日間「友の会」 搬入者累計 人				180	170		150	140		120		141		1,692			

注) 上欄での「純売上額」=総売上額-租税額。2000年度総売上額=274,185,051円。「友の会」搬入直販税抜き売上高128,771,246円。

上欄での「加工品」中の「その他」とは、大栄町支所以外の農協系統および企業が「お台場いちば」へ持ち込む加工品。

資料) 「2000年度お台場いちば売上表」の提供により、作成した。

出所) 「お台場いちば」営業部。

会員組合「新鮮倶楽部」規約での出荷資格者は、家族を含むJA組合員・JA生産部および各選果場と特定者である。従って共販品のアンテナ店を兼ね、同時に特定者としての農産加工品・地酒・地元産米などを加えた豊富な品揃えである。

JA組合員として直販農産物搬入の登録会員数は、2003年4月現在39集落125名（うち女子113名で、倉吉市旧10行政村112集落中〔西郷2集落4（4名・倉吉4集落4（2・小鴨4集落7（2・北谷9集落33（33・高城13集落44

（42・社7集落24（23・上北条1集落1（0〕および現北条町1集落1（1・現赤碕町1集落1（1・不祥町名集落での6（5名である。加えて、「久米にこここ市」と「北条町島いちじくジャム会」が、戸別とは別に団体加入している。

⑳ 「湯の関ふれあいハウス」：1995年開店のJA関金町支所直営直販所であった。2003年3月にJA直販店舗課が直轄化した。同年8月現在の会員数は116人うち女子68人である。

㉑ 「ハワイ夢マート」：1998年12月開店のJA

羽合町支所の直営直販所であった。2003年3月に⑳と同様に直轄化された。同年8月現在の会員数は181人うち女子122人である。

なお、本直販所の2001年12月当時での活動状況は以下の様であった。支所域内直販参画農家数47（新川^{ひさとめ}8・久留^{ひさとめ}6・長瀬^{たじり}9・田後^{みずおち}3・水下^{みずおち}2・橋津1・宇野2・南谷1・下浅津^{しもあそづ}3・上浅津1）に、町域外53農家の計100戸である。販売品目は第1に、参画農家搬入の金額10位までの品目（トマト・苺・菊・甘藷・大根・卵・梨・白菜・百合・メロン）と、同戸別またはグループによる加工品（そば粉・塩、糠、酢、梅酒、粕での漬物類・梨飴）。第2に、他支所と系統からの農産品（長芋・生椎茸など）と加工品。第3に共販農産物（苺・梨・ぶどう・メロン）であった。2002年度実績での販売総額は約4,903万円で直販持ち込み比率26%、加工品1%である。レジ通過顧客数は35,511件で、推定顧客構成は羽合町80・周辺市町村15・観光客4・車通過客1%であった。

さて、「⑱・⑳・㉑事例」に於いて最も注目すべきは、直販出荷に関する詳細な規定である。

すなわち、搬入品：地方市場などでの仕入品・無登録農業使用作物・薬草の販売禁止。荷姿：野菜類別での袋入などの指導。出荷量：1回大量ではなく毎日出荷の推奨。値付け：係員の指導と生産者同志の価格競争の禁止。ラベル：統一ラベル（品名・価格・氏名・出荷月日・容量記載）。品質：試食・朝取りの励行。荷受け：荷受検査有り、である。この際、禁止事項への違反は出荷停止処分となる点を明記している。

ここでJ A直販部と生産部での機構改革に言及して置く。まず、2002年11月Aコープ8店と1食肉バックセンターを(株)「ジャコム」(J Aの100%出資・資本金1億円)へ子会社化した。ついで2003年3月直販課から直販店舗課を新設させた。同時に、上述の⑳・㉑直販所を直轄化し、管轄域東半でのJ A大規模直販店の南北3地点編成を完了したと考えられる。それとも呼

応して、生産部では管轄域を3区分し、東部営農センター（対応支所—東郷・羽合・泊）、中央営農センター（関金・三朝の2支所、倉吉4支店—1は金融のみ）、西部営農センター（対応支所—北条・大栄・赤碕）を設置して、農協本来の営農部門を強化している。

3. 第3セクターの直販所

IX 「道の駅」での直販所経営の併設

⑳「楽市楽座」：1989年に三朝町と合併前の三朝農協の出資（前者700・後者500万円）により(株)グリーンサービスを設立し、国道179号線の三朝町大柿にある道の駅「楽市楽座」を経営する。同名の直販所は土産品・共販品販売への併設であり、現在は近隣農家の随時搬入として存続している。敷地内に木工センターや隣接に梨・りんご園も開設する。

㉑「犬挟」：1998年関金町・J A関金町支所・関金町森林組合・岡山県真庭郡八束村の共同出資（1,500万円）により(株)せきがね犬挟観光が設立され、同社により国道313号線犬挟トンネル至近の道の駅「犬挟」が経営される。売店は土産品・共販品・直販品コーナーに3区分され、直販参画農家200戸の半数は本町域外で、八束村域からの持込みもある。

ところで、国道9号線と国道313号線のT字交差点での、道の駅「北条公園」は北条町産業課が管理機関として「北条砂丘公園センター」（希望の館—屋内体育福祉施設・浜の泉—コミュニティフロアー・観光果樹モデル園・特産物販売所・オートキャンプ場）を造成し、その運営を(株)「北条通販」へ委託している。また、北条町産業課は「長芋1坪地主オーナー制」や「蜘蛛ヶ家山 山菜の里」の農業の多面的機能の販売でも先駆的活動をしている。

一方、本県は2002年末より地域自立戦略「鳥取ルネッサンス」—地域の人・文化・資源の地産地消の推進運動を展開している。それを受けて、県市場開拓課は2003年5月より県内市場を通して地元農産物を入荷している量販店等へ、店内に「とっとり地産地消いちば」のコーナー

設置の協力を求めた。7月現在、本域では6社・21店舗でその幟が見られる。

おわりに

本域では、直販の固有属性である少量多品目性が、すでに共販に於いて成立していた。その農業地域性を継承した本県中部域での直販は、経営主体別に実に多彩である。本稿では、本域の総人口数から直販活動数の過剰を推察した。しかし、農協系と非農協系間での会員の重複により、巧みにその両立性が計られている。ともかく、共販にはない直販活動の目的と存立には、濃淡を伴いながらも経済的志向と社会（交流）・文化的志向との両面具備が求められる。桂瑛一（2001）が「直販所は既存の流通機構に支えられながら、それを補完するものとして存在している」と説く意義の大切さを換言したまでである。また、直販活動に地域振興を求めるとすれば、社会・文化的志向の強い直販活動は自治体農政により継続的に支援される必要がある。本域直販活動も女性の行動力と創造英知、明朗性に負うところ大である。その力量にも導かれた独自性ある直販の一層の展開を祈念したい。

注

- 1) 大栄町での生活部グループ別加工品を掲載する。ナイスミズ（長芋粕漬け）、メロングループ（メロン同）、ジュエリー東園（ラッキョウ漬け）、フローリスト西園（すいか糖）、トマトグループ（焼肉のタレ）、アザレア（ボカシ堆肥）。

参考文献

- 松本洋一「大都市直売所の新経営事業開発」『農業と経済』7月号／臨時増刊号、2001年7月、39ページ。
- 藤田武弘『地場流通と卸売市場』農林統計協会、2000年、133-152ページ。
- 西原 純「盆地の中心都市と砂丘地の変貌」平岡昭利編『中国・四国 地図で読む百年』古今書院、1999年、81-86ページ。
- 小林宏行「新しいまち文化の創造 倉吉パークスクエア交流が育む地域活性」『鳥取NOW』50号、2001年6月、2-9ページ。
- 井上寛和「鳥取県東伯郡羽合町農業生産の特色—その母・メロン・ブドウ栽培」『兵庫地理』第46号、兵庫地理学協会、2001年4月、19ページ。
- 桂 瑛一「流通経済からみた直売所の意義」『農業と経済』7月号／臨時増刊号、2001年7月、8ページ。

(2003年11月14日受付)